

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察注意報第6号

果樹共通（かんきつ、なし、かき、キウイフルーツ等） カメムシ類

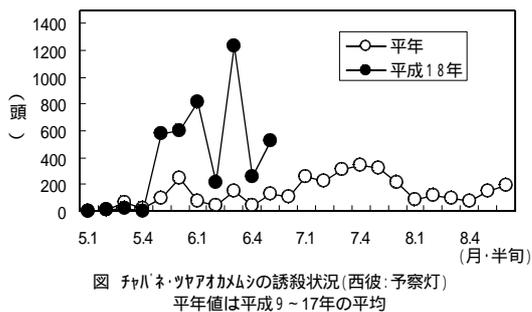
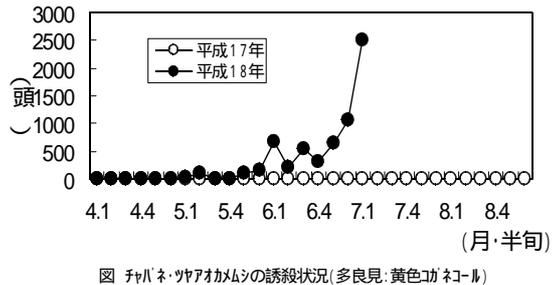
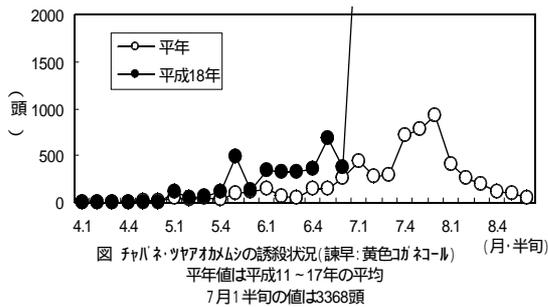
1 発生地域（対象地域） 県下全域

2 発生時期 7月上旬～8月上旬

3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬量は、過去10か年では、平成8年に次いで多く、ほぼ平成14年並であった。
- (2) フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺量は、依然多い状況が続いており、7月1半旬に激増している地点がある（図）。
- (3) 病害虫防除員の報告によると、西海町、佐世保市、大村市、瑞穂町等のかんきつ園で集中飛来している園が見られ、一部は落果が見られる。
- (4) 過去の飛来状況から判断すると、今後8月上旬頃までは、果樹園への飛来は特に多いと考えられる。



5 防除対策

- (1) 今後、8月上旬頃までは果樹園への飛来が多いと予測されるので、この期間は特に発生に注意し、園をなるべくこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 他の害虫の防除を実施する際にカメムシ類に効果がある薬剤を選択する。
- (3) 飛来期間が長期にわたるので、残効の長い合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤を使用する。
- (4) カメムシ類は夜間に果樹園での密度が高まるので防除は夕方または早朝に行う。
- (5) ハウス栽培では、開口部を防虫網（4mm目以下）で被覆する。また既に被覆済のハウスでも防虫網の破損がないか点検し、カメムシ類の侵入を防ぐようにする。
- (6) 台風通過後には、果樹園に多飛来する場合がありますので注意する。
- (7) 本年のハダニ類の発生はこれまで少なく推移しているが、病害虫防除員の報告によるとカメムシ対策で合成ピレスロイド剤を散布した園でハダニ類の発生が多い園がある。今後も合成ピレスロイド剤を散布する機会が多くなることから、ハダニ類、カイガラムシ類の発生にも注意をする。
- (8) 今後の発生状況は予察情報や病害虫防除所ホームページ（下記参照）に掲載する予定であるので防除の参考にする。